

ことばの障害

～失語症とその関わり方について～

2010.1 1.26 言語聴覚士 大塚幸子

失語症とは？

○言語障害の一種

原因 脳卒中（脳梗塞・脳出血）
交通事故による脳外傷



一度獲得された「ことば」を使うことが
難しくなる。

※左半球が損傷されるため、
右片マヒを伴うことが多い(右利きの方に多い)。

ことば(言語機能)とは？

- | | |
|-----|----------------|
| ①聞く | 相手の話す内容がわかる |
| ②話す | 自分の言いたいことを伝える |
| ③読む | 音読する、黙読する |
| ④書く | 言いたいことを書く、書き取る |
| ⑤計算 | ＋、－、×、÷ |

⇒失語症では、全ての側面が障害される。

失語症状



1) 聞くことの障害

- ・難聴とは違う。
- ・ことばは聞こえているのに、ことばを聞き分けられない。
- ・ことばの意味を理解できない。



相手の話している内容を正しく理解できない。

2) 話すことの障害

① 喚語困難

言いたいことばが、見つからない。
失語症が軽くなっても最後まで残る症状。

例・「ここまで出てるんだけど．．．
なんだっけなあ」

・りんご；…あの一赤くて甘いもの

2) 話すことの障害

② 錯語

目的のことばとは別のことばや音になること。

例)



→ 「みかん」



→ 「ねがね」 ●

2) 話すことの障害

③ シャーゴン

無意味なことばの羅列。

例

「ごじだ」

「みぐおなおかかゆ」

④ 残語

いつも同じことばや音で話すこと。

例) 調子はどうですか? 「タン。」

天気がいいですね。 「タン。」 ●

2) 話すことの障害

⑤ 助詞や助動詞の誤り (文法の誤り)

助詞(「が、は、を」など)の使い方を間違ったり、抜いてしまう。

例) 今日、天気、晴れ

今日が天気を晴れ ●

3) 読むことの障害

- ・文字や文章を声に出して読むことが難しい。
- ・書いてある内容を理解することが難しい。

特に仮名文字の理解が難しく、漢字の方がわかりやすいことが多い。 ●

4) 書くことの障害

- ・文字が書けない。
- ことばが浮かばない、文字が思い出せない
- ・書き誤る。

「話すのが難しいなら、
書いてみて」

一般的に話すことよりも書くことの方が難しい。 ●

5) 計算の障害

- ・ $+$ $-$ \times \div ができない。
 - ・繰り上げや繰り下げがわからなくなる。
-

失語症のタイプ

1. ブローカ失語
2. ウェルニック失語
3. 全失語



1. ブローカ失語

〈特徴〉

○ 聞くこと

○ 読むこと

- ▲ 話す 喚語困難、錯語、短いことば
- ▲ 音読する
- ▲ 書く



2. ウェルニック失語

〈特徴〉

▲ 聞くこと

▲ 読むこと 文字と絵のマッチングは可能なことがある

▲ 話すこと スラスラと話すか、錯語やジャargonが混じるため、内容が相手に伝わりにくい

▲ 音読する

▲ 書くこと



3. 全失語

〈特徴〉 すべての障害が重いタイプ

▲ 聞くこと

▲ 話すこと

▲ 読むこと

▲ 書くこと

発語も少なく、あるいはほとんど聞かれない。
聞いたり文字を見て理解することもできない。



コミュニケーションのポイント



① 短く簡単に話しかける

- ・ はい・いいえで答えられる質問をする
 - ・ 選択肢を提示する
相手が答え易いように誘導する。
- 例) 元気ですか? / 元気? まずまず?
お茶ですか? ご飯ですか?

注 答えを急かさずに!!
相手が反応するまで少し待ちましょう。
関わり手のペースではなく、
本人のペースに合わせましょう。



②手がかりを多くする

ジェスチャー、表情、文字、写真
日常生活の場など

③話題を限定する

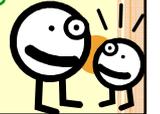
④誤りを訂正しない

間違いを訂正するのではなく、正しいこと
ばで確認するのがよいでしょう。

⑤会話の機会を減らさない



コミュニケーションは「ことば」
だけでなく、心がふれある活動。
楽しくやりとりできるよう
周囲のサポートが大切！



ご清聴ありがとうございました。

